



樹齡 6,500 年といわれる最古木で“神の杉の森”の変遷を見つめてきた



南北に 160 キロメートルも連なるレバノン山脈。背後に肥沃なベカー高原、アンチ・レバノン山脈。かつては鬱蒼たるレバノン杉の森に囲まれていた



シューフのレバノン山脈に整然と植えられたレバノン杉の若木は、順調に成長している (2008年)

撮影・口絵構成／鏑山英次

はじめに

桜美林大学（東京都町田市）のチャプレン（大学付き牧師）井上大衛は、ヨルダン川のほとりに立って、

「これは予想と少し違う……」

と軽いシヨックを受けた。

ヨルダン川はイスラエルとヨルダンの国境地帯を流れ、キリストが洗礼者ヨハネから洗礼を受けた川として知られる。また、聖書にはモーセの後継者のヨシユアがかんぢん艱難の末にこの川を渡ったともある。だから井上は、

「滔々とうとうと流れる大きな川を予想していた。私が訪れたのが夏だったせいか、流量も少なく、水も濁っていた。ちよつとイメージが違うなあ……と思った」

と言っているのである。



暮れゆく死海

ヨルダン川は、パレスチナ屈指の国際河川で、レバノンのアンチ・レバノン山脈の最高峰ヘルモン山（標高二八一四メートル）の西斜面に源を發し、ガリラヤ湖を経て、ヨルダンとイスラエルにまたがる死海に注ぐ。総延長約三五〇キロメートルの、砂漠地帯の貴重な川だ。このため、イスラエル、ヨルダン両国がこの川から大量取水し、近年、ヨルダン川の流量も、死海に注ぐ水量も激減している。新聞報道によると、一九三〇年代に年間一三億立方メートルだったヨルダン川から死海に注ぐ水量が、二〇〇〇年には三億立方メートルにまで低下、湖の水位は七〇年間で二六メートル下がったという（朝日新聞二〇〇四年七月九日付）。

これに伴い、深刻な事態が起こっている。人間の体が自然に浮くというほど塩分の濃い死海。その水位が下がると、沿岸部地下の塩水の水位も下がる。そして代わりに淡水の地下水が流れ込んで、地層の中にある塩の層を溶かしてしまう。すると突然、地表が数メートル陥没する。これを「シンクホール (sink hole ≡ 沈む穴)」と呼ぶが、イスラエル側にはすでに一〇〇前後のシンクホールができてしまったというのだ。

冒頭で触れたように、ヨルダン川といえば、ヨシユアが民を率いて渡河、イエスがヨハネから洗礼を受けた聖書ゆかりの川として知られる。新約聖書「マルコによる福音書」の一章四〜九にはこうある。

洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。

ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。



ヨハネはらくだの毛衣けころもを着き、腰こしに皮かわの帯おびを締め、いなごと野蜜のみつを食べていた。

彼かれはこう宣のべ伝つたえた。「わたしよりも優すぐれた方かたが、後あとから来こられる。わたしは、か  
がんでその方かたの履物はきもののひもを解とく値打ねうちちもない。

わたしは水みずであなたたちに洗（バプテスマ）礼さすを授けたが、その方かたは聖靈せいれいで洗（バプテスマ）礼さすをお授けにな  
る。」

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来きて、ヨルダン川がわでヨハネから洗（バプテスマ）礼さすを  
受うけられた。

（日本聖書協会、新共同訳）

イエスが洗礼を受けた当時のヨルダン川の佇たたずまいを知るすべはないが、おそらく今よりは豊かな水量で、濁りも今より少ない川だったろう。井上もまた、

「もつと水量も多く、澄んだ水だったと思います。場所にもよりますが……」

と言う。ちなみにレバノンの首都ベイルートのセント・ジョージ教会に掲げられているキリスト受洗の絵では、ヨルダン川は水草が清流に揺れる美しい川として描かれていた。



セント・ジョージ教会のステンドグラス（パイルート）

ヨルダン川の荒廃、水不足は直接的には、人口増大や産業発展に伴う水需要増を背景としたイスラエルとヨルダン両国の過剰取水によるものだが、水源地のレバノンの山々の荒廃も遠因となっているのではなからうか。レバノン国内を南北に走るレバノン山脈、それと並行するアンチ・レバノン山脈は往古、レバノン杉などの巨木で覆われていたものと思われる。

レバノン杉（学名 *Cedrus Libani*）は、大きなものでは樹高四〇メートル、幹周り一〇メートルにもなる。この木は馨しいかぐわ香りを放つため、「香柏しょうはく」とも呼ばれ、聖書に一〇三回（七三回説もある）登場、「神



の園のどの木も美しさを比べえなかった」と讃えられた。人類最古の物語といわれる「ギルガメシュ叙事詩」も、レバノン杉をめぐる物語だ。エジプト、メソポタミアの王宮や神殿の柱や梁<sup>はり</sup>となり、地中海を行き交った船団の帆柱にもなった。「杉」と呼ばれるが、実は松科の針葉樹で、主に標高二二〇〇メートル以上の高度帯に育つ。

レバノン杉は、「文明の発展のため」という美名のもと、次々と伐採され、レバノン杉の森は時代とともに姿を消していった。いまはレバノン国内に小さなものを入れても十数カ所、残るだけだ。ヨルダン川に見られる「聖書の風景の変容」もまた、この伐採と深く関わっているのではあるまいか。

そんなレバノン杉を軸に、「人類と森との関わり」の歴史と物語を追ってみたい。それは数千年前の「ギルガメシュ叙事詩」から、二一世紀の最大の課題「地球温暖化」にまで及ぶ物語となるはずである。あわせて、レバノン杉保存を目指すレバノン現地の人々の運動、さらに私たち桜美林大学の保存運動についても報告したい。

なお、文中（写真説明を含む）では敬称を省略させていただいた。また年齢は原則として、取材当時のものである。

## 目次

推薦のことはば——森と人類との共生の課題 梅原猛 3

はじめに 5

### 第1章

## レバノン杉の森を歩く

### 一 「神の杉の森」へ 18

霧の中から／老樹との対話／タオク一家／カデーシャ渓谷の村／なぜ、森は残ったか

### 二 もう一つの森 33

シユーフの森／地域再生／レバノン杉保護地域

### 三 レバノン杉と地球温暖化 47

迫る危機

### 第2章

## 栄光と受難の歴史

### 一 争奪戦 52

香柏と呼ばれた木／ギルガメシュ叙事詩とレバノン杉／イスラエルの登場

二 うち続く受難

64

列強もまた

第3章

カルタゴ物語

一 故地に立って

68

一木一草も残さずに／デイド伝説

二 ポエニ戦役

78

第一次ポエニ戦役／第二次ポエニ戦役／第三次ポエニ戦役／落涙

三 日本カルタゴ論

93

何のための金なのか

第4章

レバノン杉と日本

一 高知商高とレバノン杉

98

校歌に登場／フェニキア人のそれのごと／商業高校の象徴として／  
校庭のレバノン杉／世界に羽ばたく

第5章

相似た運命

二 東京のレバノン杉 <sup>111</sup>

林試の森のレバノン杉／新宿御苑のレバノン杉／広がったレバノン杉／  
レバノン杉の来た道／欧化政策のため？

一 秋田杉の場合 <sup>124</sup>

三つの森を歩く／秋田杉と秀吉／水路を用いての運搬／江戸時代の秋田杉／  
明治以降の秋田杉

二 屋久杉の場合 <sup>136</sup>

縄文杉に会いに行く／受 難／戦時下の屋久杉／保存へ

第6章

よみがえれ！ レバノン杉

一 ある日本人の奮闘 <sup>148</sup>

一本の電話から／マスコミも高い評価／単身で下見に／倒産も覚悟で／  
蛮勇を振るって／抱き合って男泣き／脱サラで造園業に

## 緑の新時代へ

- 二 桜美林大学の挑戦 165  
レバノン杉を育てる／戎からのプレゼント／回れさくらかぜ
- 三 震災の街にレバノン杉を 171
- 一 イースター島―緑を全滅させた島― 178  
悲劇の島へ／モアイが見たものは／島の現状／なるか緑の復活
- 二 燃料の歴史は脱炭素化の歴史 190  
森との共存の時代へ／終着点の水素
- 三 京都議定書と森林吸収 195  
熱い議論と迷走／森林吸収（シンク）の意義
- 四 新たな挑戦―佐藤清太郎さんの森― 201  
森の保育園／林業から森づくりへ／風のハーモニーの活動／森が教えてくれる

あとがき

213

主要参考文献

217

## コラム

故郷を思う心

32

揺れ動くレバノンの政情

38

シバ（シユバ）の女王

63

名将たち

95

フェニキア人の末裔

110

秋田杉と江戸の「振袖火事」

134

『浮雲』の舞台

140

賀川豊彦と桜美林学園

166

森の消滅と狼

194





レバノン・パレスチナ地域略図

❦  
第1章  
❦

レバノン杉の森を歩く

## 一 「神の杉の森」へ

### 霧の中から

霧の中から文字通り忽然と、こつぜん「神の杉の森」はその姿を現した。レバノン山脈越えの山道は、霧の名所である。地中海からの暖かい空気とレバノン山脈の冷たい空気とがぶつかり、しばしば霧を発生させる。そしてその霧が、山の木々を大きく成長させるといふ。

私たちを乗せた四輪駆動車が、レバノン山脈の頂近くの峠に差しかかったときだった。ハンドルを握るレバノン人の運転手が言った。

「ここからならレバノン杉の森が見えるはずです」

この言葉を合図にしたかのように、数メートル先も見えないほどの深い霧が、横なぐりの風で吹き払われた。そして下り道のはるか先に、現地の人たちが「アルゼラブ（神の杉の森）」と呼ぶレバノン杉の森が現れたのだ。

お椀<sup>わん</sup>を伏せたような小さな、小さな緑の森だった。これが聖書で「神の園のどの木も及ばない」と讃えられ、エジプトやメソポタミアの神殿や宮殿の梁材となり、古代文明を大きく支えたレバノン杉の森なのか？ 正直に告白すれば、そのとき湧き上がってきたのは落胆に近い感情だった。

これがレバノン杉との最初の出会いだった。二〇〇四年の晩夏のことである。その後、何度かレバノン現地に出かけることになるのだが……。

レバノン杉は人類最古の叙事詩といわれる「ギルガメシュ叙事詩」、さらには聖書にしばしば登場、人類史に深く関わり、人類の歩みを見続けてきた木だ。「レバノン杉の姿を一目、この目で」と思い始めてから十余年。レバノン共和国の政情不安の故にかなわなかった現地入りが、この年やっと実現したのだった。

## 老樹との対話

峠から一五キロメートルほど下ると、森の入り口に到着する。ここはレバノン山脈西側の窪地<sup>くぼち</sup>で、標高約一八〇〇メートルの地点だ。いつしか霧は完全に吹き払われていた。森



マロン派教会

へ降りる途中では、羊飼いが羊を追いたてながら石のゴロゴロする山肌を登ってくるのに遭遇した。荒野と羊飼い、そして聖書にしばしば登場するレバノン杉。一瞬、聖書の世界に入り込んだような気がした。ふと目を小高い山の上に移すと、そこには教会が建ち、窓にはレバノン杉のレリーフが埋め込まれていた。私の中で、いつしか「落胆」は消えていた。

森に足を踏み入れる。柔らかな土だ。木漏れ日が私たちの肩にやさしく降り注ぐ。そして樹間から見えるのは、午後の日差しを浴びて紫色に輝く、石灰岩剥き出しのレバノン山脈の山肌だ。往古、レバノン山脈は豊かなレバノン杉の森だったというのに、いま、そこにはやせた木

一本すらも生えてはいない。廣大無辺ともいえる山脈に、ひっそりと残る緑の島。それが「神の杉の森」だと思つと、「落胆」に代わつて、いとしさが込み上げてきた。

残された円形の森は七ヘクタールほどしかない。直径にするとわずか三〇〇メートル。一二〇〇本ほどのレバノン杉が森を形成しているが、そのうち樹齡一二〇〇年以上の古代杉は約四〇〇本だという。

年を重ねたレバノン杉は美しい。扇を広げたような均整のとれた枝ぶりと濃い緑の葉、地中海特有のコバルトブルーの空を目指して、まっすぐに伸びる太い幹、そして大地をがっしとつかむこぶだらけの根。力強さとともに品格も備え、「王者」の風格を漂わせる。また、切られた木からは馨しい香りも漂うといい、別名の「香柏」はここからきている。旧約聖書の「エゼキエル書」の三十一章三〜八では、レバノン杉の美しさがこう謳われている。

見よ、あなたは糸杉、レバノンの杉だ。



その枝は美しく、豊かな陰をつくり

丈は高く、梢は雲間にとどいた。

水がそれを育て、淵がそれを大きくした。

淵から流れる川は杉の周りを潤し

水路は野のすべての木に水を送った。

その丈は野のすべての木より高くなり

豊かに注ぐ水のゆえに

大枝は茂り、若枝は伸びた。

大枝には空のすべての鳥が巣を作り

若枝の下では野のすべての獣が子を産み

多くの国民が皆、その木陰に住んだ。

丈は高く、枝は長く伸びて美しかった。

豊かな水に根をおろしていたからだ。

神の園の杉もこれに及ばず

櫨もみの木きも、その大枝おわたに比べくらえず  
すずかけかみの木きもその若枝わかえだと競きそいえず  
神かみの園そののどの木きも美うつくしさを比くらべえなかつた。

(日本聖書協会、新共同訳)

レバノン訪問の直前、私は秋田県の老林業家から、こう教えられた。

「木は年を取るほど美しくなる。そんな木と対話をしてきなさい」

アルゼラブの森にひときわ目を引く老樹がある。地元の人々が「樹齢六五〇〇年」といつている大木だ。高さ三五メートル、幹周り一二メートル。ゴツゴツで褐色の樹皮は、年を重ねた老人の皺しわのようにも見える。太古の森の姿を知り、ひよつとしたらギルガメシユと森番フンババとの死闘を見ていたのかもしれない老樹。切なさを伴った、不思議な気持ちきもちが湧わいてくる。

私は秋田の老林業家の教えを思い出し、心の中で、この老木に問いかけた。

「あなたの目には、人間の営みはどう映うつっているのでしょうか。人間ははたして、賢いので



タオク一家

しょうか、愚かなのでしょうか」

もとより、答えはない。一陣の風に、小枝をわずかに揺らしたただけだった。それが私には、「人間の営みなどを超えて、時は流れていくのだよ」

と言っているように思えた。

## タオク一家

この森の東側の入り口に、タオク一族が経営する「森の砦<sup>とりで</sup>」という名のレストランがある。

タオク一族は、この森から約五キロメートル下ったブシャレ村の有力五部族のうちの一つだ。レバノンの人びとは一般的に「フレンドリー」だといわれるが、タオク一家も訪ねるといつも、

❦  
第6章  
❦

よみがえれ！

レバノン杉

## 二 桜美林大学の挑戦

### レバノン杉を育てる

筆者（伊藤、岡本）らが勤める桜美林大学でも、レバノン杉の苗を育てている。そして将来は、キャンパス内の「復活の丘教会」近くの丘の斜面に、レバノン杉の小規模な森をつくる、との夢をふくらませている。

桜美林学園の創設者は清水安三（やすぞう一八九一―一九八八年）。戦前、キリスト教の宣教師として中国に渡り、北京・朝陽門外のスラム街で孤児らの教育に取り組んだ。さらに労働理想主義者として知られる大原孫三郎（まじぞぶろう）の援助でアメリカに留学。その後、北京に戻った安三はスラム街の少女らに読み書きと手芸を教え、「北京の聖者」と呼ばれた。

しかし、一九四五（昭和二〇）年、日本は敗戦。安三は校舎や教材のすべてを残して日本に引き揚げ、東京西郊の町田の地に、桜美林学園を築いた。学園は現在、幼稚園、中学

## 賀川豊彦と桜美林学園

賀川豊彦（一八八八—一九六〇年）は、近代日本の代表的キリスト者であり、同時に労働運動、農民運動、協同組合運動、平和運動の先駆的指導者として知られる。彼の運動の一端を紹介しよう。

一九二一（大正一〇）年、賀川は、杉山元治郎を委員長として日本農民組合を組織する。過酷な小作料に抗議して全国で相次ぐ小作人争議。小作人の結集こそ必要、と賀川は考え、当面の活動資金として、印税や原稿料を投入した。創立大会では、彼が起草した宣言が採択される。宣言にはこんな一節があった。

農は国の基であり、農民は国の宝である。日本は未だ農業国である。国民の七割は田園に居住し、またその七割は小作人である。然るに積年の陋弊は田園に充ち、土地兼併の悪風漸く現れ、田園も遂に資本主義の侵略するところとなり、小作人は苦しみ、日雇人は嘆く。茲に我等農民は互助と友愛の精神を以て解放の途上に立つ。

また、関東大震災（一九二三年）の被災民救済でも、ボランティアの草分けとして東奔西走、義捐金を集め、 TENT や布団を被災者に贈っている。もちろん、この間、賀川は人々に「神の国」を熱く説いている。そして、貧民街に住み込んでの献身的活動を中心に描いた自伝的小説『死線を越えて』（改造社、一九二〇年）は、大ベストセラーとなった。

その賀川が一九四六（昭和二一）年から五四（昭和二九）年まで、桜美林学園の初代理事長を務めている。いきさつはこうだ。

一九四五（昭和二〇）年、太平洋戦争は日本の敗戦で終わる。翌四六年、中国から裸一貫で日本に引き揚げてきた清水安三は、東京・神田で、朝風呂を浴びて外に出たところで旧知の賀川豊彦にばったりと出会う。「君、日本では何をするつもりかね」と問う賀川に安三は、「農村に教会と学校を建てたいです」と答えた。そのとき賀川は、片倉組の社長から「ぼろぼろだが一六〇〇坪の大きな寄宿舎を、淵野辺の地に持っている。何か役に立つ使い道はないものか」との相談を受



けていたのだ。社長秘書に現地を案内された安三はすつかりこの「大きくてぼろぼろの建物」が気に入り、そこに桜美林学園を設立することを決意する。安三は自著『石ころの生涯』（桜美林学園発行、一九七七年）で、次のように書いている。

これは私と小川君「引用者注・片倉組社長の秘書」との会話であった。

「どういふわけで片倉組の社長は、賀川さんに貸与する気になったんだろう」

「それは片倉組の社長の邸宅が、米国の弁護士の仕事として接収になろうとしたのを、賀川先生の尽力で、同居、相ずまいということになり、社長は非常に賀川さんを徳として、一夕その弁護士と賀川先生を招いて宴会を開かれたのですよ。その宴会がちょうどあなたが賀川さんに神田でお会いになった日の前夜のことだったので。その宴会がはねて賀川さんがお帰りになる時、玄關で『賀川さん、私は東京の郊外の農村にこういふ大きい建物を持っています、何かお役に立ちませんか』と社長が言われたの

だそうです」

「するともう一日早く、あるいは一日遅く、私が賀川さんに会っていたら、賀川さんも私に建物を紹介して下さることはできなかったのですね」

「美しい景色だね。僕はこの地が気に入った」

と言って二階の窓から眺めると、相模連山の遙か彼方<sup>かた</sup>に富士山がほんの頂だけはあるが、白扇をかさにしてのぞいていた。

（中略）

日本の土を踏んでまだ一週間もしないうちに、東京に着いてやつと三日目なのに建坪一千六百坪もある建物が手に入ろうとは、これが神の仕業でなくて何であろう。

こうして誕生した桜美林学園。賀川は喜んで初代理事を引き受けたという。鼻眞目を承知で言うのだが、モンゴルに風車を贈る運動や、レバノン杉保存の活動をしている現在の桜美林大学の学生にも、賀川が種播いた奉仕や博愛の精神が受け継がれているという気もするのだが……。



レバノン杉の苗木

校、高等学校、大学、大学院、留学生別科、桜美林大学孔子学院を擁する総合学園に発展、学生数も一人を超え、「地球市民たれ」が建学の精神で、キリスト教精神に基づく教育が行われている。

同学園では以前から、「聖書に登場する木」の植樹を行ってきた。レバノン杉についても二〇〇四年から取り組みを始め、レバノン現地を訪れた教員、学生が持ち帰った苗木を育てている。申し訳ないことだが、キャンパス内に植えた苗木を枯らしてしまったこともある。このため、現在は植木鉢の中で慎重に育てており、

「卒業式の会場に鉢を持ち込んで飾れないか」

「将来は学園内の復活の丘教会の近くに、小規模

なレバノン杉の記念の森をつくれなにか」

などの検討が進んでいる。

レバノン現地では、「一ドルカンパで苗木一本を植えよう」という運動が進んでいる。この仕組みを生かし、現地情勢が安定したら、お金を届け、現地に「桜美林大学の森」をつくるという計画もある。

### 戒からのプレゼント

うれしい動きがある。先に紹介した戎晃司は、広島の自宅の庭でレバノン杉を育てている。数年前、レバノン現地で関係者から贈られたレバノン杉の苗木を植えたのだが、いまや二メートルを超える樹に成長した。桜美林大学の「レバノン杉の森づくり」の話を聞き、「それなら寄贈しましょう」

と約束してくれたのだ。二〇一〇（平成二二）年春をめどに、広島から桜美林大学に、この樹が運ばれる手はずである。

このレバノン杉の植樹は、学園の「エコキャンパス化」の一環と位置づけられている。

同学園では、風車（風力発電）による自然エネルギーの創出、サツマイモの屋上栽培によるヒートアイランド対策、スクールバスへのハイブリッド・バスの導入など、種々の環境対策が取られている。屋上栽培のサツマイモでは、葉の繁ったところと、葉が届かない防水マットが敷かれた部分とで、二〇度もの差があることがわかった。

### 回れさくらかぜ

風車は——。二〇〇五年春、スクールバスの発着場に英国製の風車「さくらかぜ1号」が設置された。学生の発案に大学当局が応えたものである。

さらに学生たちは、カンパ活動などで資金を集め、大学当局からの資金協力も受けながら、モンゴルに小型風車を寄贈する運動に取り組んでいる。火力発電の煙で冬の空が真っ暗になるというモンゴルのような地にこそ風車が必要、と考えたからだ。応援団長をモンゴル出身の横綱（当時）朝青龍にお願いして快諾を得た。

学生らは、風車をかたどったバッジの販売やアルバイトなどで資金を集め、すでに「さくらかぜ2号」から「さくらかぜ7号」まで、小型風車六基を贈っている。贈呈先はモン

ゴル・ウランバートルの児童収容施設などだ。

「復活の丘教会」は、キャンパスの北西のはずれの小高い丘の上にあり、学園の全景と町田の市街地を望むことができる。その丘の斜面に植樹したレバノン杉が無事育ち、何十年、何百年後に巨樹に成長したら……。そんな光景を想像すると、こころが躍る。もちろんその頃には、私はこの世にいないけれど……。

### 三 震災の街にレバノン杉を

その木は、現在、兵庫県宍粟市しそにある。石黒マリーローズが、一九九五（平成七）年の阪神・淡路大震災のあと、被害を受けた兵庫県の人びとに、「早く元気になってほしい」との気持ちを込めて贈ったものだ。

石黒マリーローズはレバノンが正式に独立を宣言した年、一九四三年に、レバノンの首